



2021.6.11
第175号

発行
村会会
町議支会
市協議支
県教委津支
島教育連北
福教連北耶
津麻沼

編集
福島県教育
会津教育事
務所

編集協力
小・中学校長
会

クラクションを鳴らされたことがない



会津教育事務所
所長 横山 修

昨年、相双地区から会津に来て何年か住んでいる方から、「会津で車を運転していて、クラクションを鳴らされたことがない」という話を聞きました。その時は、「会津だからということではなく、偶然ではないか。そもそもむやみに鳴らすのは交通違反だ」くらいに思っていました。そして、私も、会津に住んで一年が経ちました。何と、この一年、クラクションを鳴らされることは一度もありませんでした。私は運転が上手な方ではありませんので、周囲の流れに乗れていないこともあると思います。ですから、地元にはクラクションを鳴らされることもありませんでした。しかし、こちらに来てからも「確かに鳴らすことはほばない

です」と言います。これは一体どういうことなのでしょう。私は、福井県に視察に行った時のことを思い出しました。教育委員会や学校を見学して、この県は「勉強は大切だ。やらなくてはならない」とする県民性が強いと感じました。私などは小さい頃から「勉強よりもっと大切なものがある」と育てられてきたので、この県を勉強で上回るのは大変なことだと感じたものでした。

先ほどのクラクションの件も、この「県民性」や「お国柄」といった人々の気質と関係があるのではないかと思います。クラクションを鳴らしたら相手は驚くだろうと考える温かさ、発進しないのは何か事情があるのではないかと察する思いやり、

いらいらを感情に任せて人につけることをよしとしない忍耐力、もちろん、法律を守ろうとする遵法精神もあるでしょう。そうしたことが相まって、クラクションを鳴らさないことにつながっているのではないのでしょうか。

こうした気質は、一朝一夕に身に付くものではないでしょう。地域の歴史や風土、家庭教育や学校教育、社会教育によって長い時間をかけて育まれるものなのだと思います。

今、会津教育事務所に勤務し、こうした会津の教育の一端を担わせていただいていることは、本当に誇らしいことであり、ありがたいことだと感じています。今年度も、皆様の協力をいただきながら施策を推進し、会津のよさを一層伸ばしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

追記 先日、車でスーパーに買い物に行った際、駐車場でバックしようとする、勢いよく入ってきた車があり、その車に、プーツとクラクションを鳴らされてしまいました。「ああ、ついに」と思い、その車のナンバープレートを見ると、他県のものでした。

管理関係重点事項

令和三年度「会津教育事務所推進プラン」視点⑥に示した「信頼される学校づくり」の実現に向け、学校の適正な管理運営、不祥事根絶、次代の管理職・中堅・若手教員等の育成について、域内の市町村教育委員会をはじめとする地域や関係機関と連携を図り、管理業務を推進してまいります。

1 教職員の勤務の適正化と多忙化解消に向けた取組を推進します。

- 学校課題の解決が図られるよう、市町村教育委員会との連携を密にした人事事務を推進します。
- コロナ禍の中においても、教職員の「多忙化解消」に向けた取組を推進し、教職員の業務改善意識の向上と長時間勤務の削減に努めます。

2 服務倫理委員会の活性化を促すための支援を充実させ、不祥事防止に努めます。

- 教職員一人一人の当事者意識や倫理観の高揚を図るため、「信頼される学校づくりを職場の力で」等を継続して活用していきます。

3 管理職の実践的な学校経営マネジメント力の向上を図るための支援を充実させます。

- 校長会や教頭会、学校訪問等で情報提供や必要に応じた指導・助言を行います。
- 学校訪問や研修会等を通し、組織マネジメント能力の向上に努めます。

会津教育事務所は、校長のリーダーシップの下、教職員が、充実した教育活動を展開し、保護者・地域から信頼される学校づくりのお手伝いをしてまいります。

社会教育関係 「コミュニティ・スクール」 紹介～会津坂下町の取組～

スタート！『ばんげコミュニティ・スクール』笑顔と前向きな言葉かけ

「町の保育所、幼稚園、小学校、中学校へ、地域の方に気軽に来ていただき、子どもたちにたくさんの笑顔と前向きな言葉のシャワーをかけて、学校と一緒に子どもたちを育てていく力になっていただきたい。」

この鈴木茂雄教育長の熱い思いを現実のものにするために、本町では、今年度より「ばんげコミュニティ・スクール（以下CS）」がスタートしました。

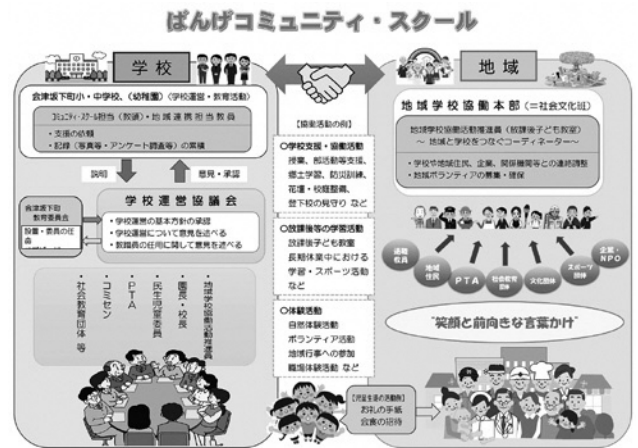
一昨年から準備を始め、「CSとは何か」について研修の機会を設けました。会津教育事務所の菅家篤主任社会教育主事にもご指導をいただき、CSは「地域と共にある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現していくことが目的であるということをおぼととも、教職員、保護者、地域住民が、学校や地域の課題を共有し、共通の目標を持って協働していくことを目指していくことが大切だということをおぼととも理解することができました。

本町のCSは、町内の小学校2校と中学校1校を包括した連携運営型の学校運営協議会になりますので、拡大学校評議員会を開催し、CSの趣旨について説明をしました。

昨年度までも、「夏休みお助け勉強室」、学校の庭木の剪定や草刈りをする「GBたすけ隊（G：おじい様、B：おばあ様）」、家庭科の学習支援をしてくださる「坂下婦人会」、書写の学習では「会津坂下書道連盟」…と様々な方々に幼稚園や学校に入っていました。

このような方々もこのCSの大切な要素である地域学校協働本部に登録していただき、今後、学校を支えていただくようになります。気軽に学校に立ち寄り、子どもたちに笑顔と前向きな言葉かけをお願いしたいと思っております。そして、様々なご意見をいただきながら、地域に開かれた学校を目指していきます。

このCSが軌道に乗りましたら、次の段階として、どの地域でも課題になっている少子化対策の一つとしての中学校の部活動の地域委託もこのCSの延長の枠組みの中で検討していきたいと考えております。



令和3年度 会津教育事務所 指導の重点【前期】

会津の強み【令和2年度学校訪問から】

- 1 子どもたちの興味・関心を高め、思いや問いを引き出して、「めあて」を設定する授業が多く見られる。
- 2 コロナ禍の中であるものの、ねらいを達成させるために児童生徒の思考の時間を確保し、様々な言語活動やICT機器等も活用しながら、考えを広め深める授業の工夫が多く見られた。
- 3 学級担任を中心に学校ぐるみで不登校の未然防止、及び将来的な社会的自立を目指した心温まる指導が行われている。

会津の課題

- 1 全国学力・学習状況調査結果（令和元年度実施）では全国平均正答率を下回っている。【特に中学校英語】
※概ね全国平均（小学校国語）、下回っている。（小学校算数、中学校国語、数学、英語）
- 2 不登校児童生徒が年々増加している。
※1,000人あたりの出現率が全国平均を上回っている。

目標1

授業等での学習内容の定着

指導の重点

- 1 まとめ・振り返りの時間を確実に確保する。
- 2 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図る。
- 3 授業と家庭学習を連動させる。
※「授業スタンダード」のより一層の活用を図る。

目標2

新規不登校児童生徒の出現防止

指導の重点

- 4 教師による子どもの居場所づくりを促進する。（「分かりやすい」授業、一人一人が活躍できる学級経営）
- 5 早期発見、早期対応による未然防止に努める。（組織的な対応）



「いつか会津に恩返しを」

昭和村教育委員会教育長 安藤 哲朗

私は小さい頃、会津が好きではありませんでした。福島市で生まれ、坂下保育所に通いましたが、若松に引っ越したら、近所でも幼稚園でも仲間に入れてもらえず、悲しい思いをしたからです。そんな中、優しくしてくれて心に残っていた近所の先輩が、今の北塩原村教育長で、再会を喜びました。鶴城小に入学し、白河、伊達、福島の5校で学んで東京の大学に進み、喜多方に帰省していました。

新採用は裏磐梯中学校。仕事も人も自然も厳しく、東京を選ばなかったことを後悔しましたが、先輩から教職の基本を学び、部活で県大会連覇の伝統を守れたことが、私の教育の原点になりました。生徒や地域の人々とも心が通うようになり、「会津の三泣き」で両親の住む県北に戻りました。

荒れた中学校勤務が続いて生徒指導に部活にと家庭を顧みず奔走し、途中インドの日本人学校に派遣され、大規模校教頭時代は過労死も覚悟し、拾う神あって昭和村に辿り

着きました。

昭和村で、「子どもに良いと思うことは何でもやりましょう。責任は私が…」と言える、信頼できる先生方に出会い、児童と学校が変わりました。

8月異動で放射線の健康影響に揺れる県北に戻った後、人間関係に悩みましたが、元昭和村の同僚や昔の教え子たちの励ましもあり、「教員になって本当によかった」と思って終わったことに感謝しました。

恩のあった村長さんに声をかけていただき、2年前に昭和村に戻って来ました。よそ者で行政経験もなく不安でしたが、村民や近隣の教育長さん達が温かく迎えて教えてくださり、会津教育事務所の皆様にお世話になり、同僚達に助けられて、お陰で何とかやっています。

会津は、美しい自然と人情の厚い人々、独自の伝統や文化、お酒に温泉など、日本の宝がたくさん残る私の一番好きな故郷になりました。いつか会津と昭和村の皆さんに恩返しできるよう、未来ある子どもたちのために、微力を尽くしたいです。

我がまちからの情報発信

西会津町教育委員会

産官学民との連携教育

西会津町では、平成29年度より県から地域学校協働本部事業のモデル地区の指定を受け、「地域に開かれた学校」を掲げて取り組んできました。その実践が評価され、平成30年度に文部科学大臣表彰をいただき、令和2年度には町内小中学校にコミュニティ・スクールを導入し、現在2年目を迎えています。

GIGAスクール構想がコロナ禍により急速整備され、全国的に児童生徒に一人一台の端末が配付されました。

本町では、ICT機器を取り入れた授業改革による「新しい学び」を推進するために、3年前より産官学民と連携した教育に取り組んでいきました。

産官学民の「産」においては、地元工業会に寄贈いただいた人型ロボット（ペッパー）を活用したプログラミング教育や地元のキノコ栽培に携わる大手ソフト会社によるプログラミング教室を開催しています。



「官」においては、文部科学省からアドバイザー派遣や他省庁の補助金など、積極的に連携を図っています。

さらに「学」においては、会津大学にICT支援員の確保にご協力をいただくとともに、大学と町が連携協定を締結し、より最先端技術に触れる機会を創出することが可能となりました。

これら時代の流れに応じた教育を進める一方で、教育には変えてはならないものも存在します。それは地域の歴史や文化の継承であり、それらを学ばせるために小学校高学年を対象とした「西会津こども研幾塾」を開塾し、地域のみなさん、「民」の力を活用しながら、故郷を愛する心を育むことで、町を支える人材の育成に取り組んでいます。

教育による人づくりこそがサステナブル・タウン（持続可能なまち）を創るという考えの下、より一層の産官学民との連携教育を進めていきたいと考えています。

令和3年度会津教育事務所推進プラン

【域内の現状(強み・弱み)】

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちは素直であり、学習意欲が高い。 ○ 各学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組が顕著である。 ○ 学校生活の中で、子どものよい点や可能性を見だし褒めるなどの取組を積極的に行っている。 ○ 各市町村の社会教育が充実している。 ○ 地域学校協働活動や放課後子ども教室、家庭教育支援のモデルとなるよい取組が見られる。 ○ 特別支援学級・通級指導教室における特別の教育課程編成の工夫や自立活動の指導の充実が顕著である。 ○ 運動身体づくりプログラムの全校実施など、組織的な取組により、体力向上が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校ともに学力調査の平均正答率が低く、特に活用に関する問題を苦手としている。(R1学力調査より) ・ 授業等におけるICT活用に不慣れな教員が多い。 ・ 不登校児童生徒数が小学校でも増加傾向にあり、小中の出現率が県内で最も高い。 ・ 学校教育と社会教育の連携協力体制の整備をさらに進める必要がある。(コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進) ・ 特に通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒に向けた校内支援体制を整備する必要がある。 ・ 肥満傾向児出現率が高く、改善傾向が見られない。 ・ 不祥事根絶や多忙化解消に対する意識の個人差が大きい。 ・ 教職員の不祥事が続いている。



人間力に満ちた人材の育成 ～学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育～

〈推進ビジョン〉

域内の市町村教育委員会、小・中・高等学校長代表者会をはじめとする地域や関係機関と連携し、**学校・家庭・地域が一体となって、人間力に満ちた人材の育成に努めます。**

※人間力に満ちた人材…学習や経験から学んだ様々な力を生かして、自らの道を切りひらき、社会に貢献することのできる人材

視点① 学力の向上

- 授業改善のための指導の重点を前期・後期に作成し、それらを活用して授業の充実を努めます。
- 学校のニーズに応じた要請訪問の実現や「ステップアップ『Aizu』」を工夫し、教師の自己研鑽の場を充実させます。
- キラリ校の取組や全国・県の学力調査を活用するための資料を作成し、「確かな学力」の向上を図るための支援を充実させます。

視点② 人間性・社会性の育成

- 不登校に関するリーフレットを作成し、訪問時等に活用して、適切な未然防止・初期対応を推進します。
- 「理解シート」「援助チームシート」を生かし、悩みを抱えた(支援が必要な)児童生徒への組織的な支援を充実させます。
- 魅力的で多様な道徳の授業や特別活動が展開できるような支援をします。

視点③ 健康・安全な習慣づくり

- 各校の体力向上推進計画の見直しを図り、計画の有効性や実効性を検証します。
- 「自分手帳」を効果的に活用し、健康マネジメント力の育成を図ることができるような支援をします。
- ICTや外部講師を取り入れた先進校の活動を紹介するなど、保健・安全指導の充実に向けた支援をします。

視点④ 地域と学校の連携・協働の推進

- 実践紹介日より『連携・協働のカ・タ・チ』の発行等、学校及び社会教育関係者への積極的な普及啓発、理解促進に努めます。
- 子どもたちが「地域の人・もの・こと」と関わることの意義に視点を当てた講演、講義等を取り入れ、「地域連携担当教職員等研修会」の充実を努めます。
- 研修の講師等の要請を積極的に受け入れます。

視点⑤ 切れ目のない支援体制の整備

- 校長のリーダーシップの下、全教職員の共通理解を図り、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制整備を推進できるように、児童生徒の実態把握や理解等に関する研修を支援します。
- 市町村教育委員会が主体的に支援体制整備を推進できるように、研修や関係機関との連携強化への支援をします。

視点⑥ 信頼される学校づくり

- 教職員の勤務の適正化と多忙化解消に向けた取組を推進します。
- 服務倫理委員会の活性化を促すための支援を充実させ、不祥事防止に努めます。
- 管理職の実践的な学校マネジメント力の向上を図るための支援を充実させます。